



『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第4号(2008年3月28日)「世界に羽ばたく国際優良企業」



低迷する日本株式市場

昨年からの米国の景気減速懸念を受けて、日本の株式市場も軟調な相場状況が続いています。このような状況下で、多くの方が今後の日本株式市場について、心配されているのではないかと思います。しかし、こうした中でもアジアを中心とした新興国などに積極的に進出し、世界的な競争力を背景に成長を遂げている日本企業も存在します。

今は、そうした企業の株価までもが売り込まれており、裏を返せば投資するいい機会ともいえます。

世界に羽ばたく「国際優良企業」

「国際優良企業」という言葉はよく聞く言葉ですが、ここで言う「国際優良企業」とは海外のビジネス誌などでランキングされている欧米の大企業ではなく、日本発の海外で活躍する企業のことです。

これらの企業は、独自の高度な技術を持ち、品質にこだわって商品やサービスを提供していることから、国内のみならず海外においても高く評価されているグローバルなブランド力を持った企業とも言えます。

国際優良企業とは？

高い技術力

高い国内シェア

海外でのブランド力



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



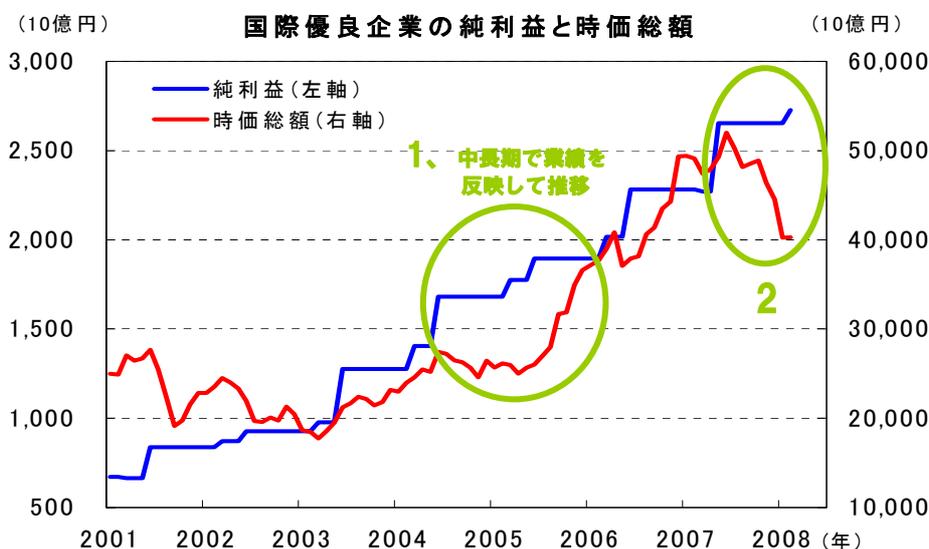
『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



ギャップをとらえることが株式投資

下記のグラフは、スパークスが定義した国際優良企業の純利益と時価総額の推移です。時価総額とは、株価×発行済み株式数で表わされる企業の規模のことで、株式市場を通じて企業を丸ごと買うにはいくらかかるのかを表わしているものでもあります。



※国際優良企業の分類は、GICS分類により国内シェア30%以上、海外売上高比率30%以上、過去10年の平均ROE5%以上の銘柄に基づき分類。

※上記は、将来を保証、示唆するものではありません。

出所: 東洋経済の情報を元にスパークス・アセット・マネジメントが作成。

上記1の期間では、純利益と時価総額で大きなギャップがあります。つまり短期的には株価は企業業績を反映しきれないことがあるということです。しかしながら、中長期的に見れば株価は企業業績を反映する傾向があります。

上記2の直近の期間においても、大きくギャップがあります。その点からすると上記2の期間の株価は業績が反映されておらず、逆にこれらの企業の株価が割安になっているとも言えます。やはり株式投資は、短期の値動きに左右されずに、じっくりと投資することが基本なのです。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート

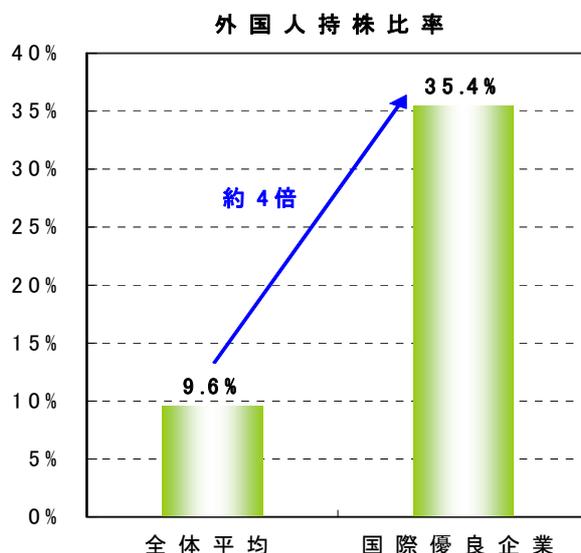


「国際優良企業」をウォッチする外国人投資家

日本の消費者の品質要求が厳しいのは有名ですが、それゆえ国内市場を勝ち抜いた企業というのは、海外からも高く評価される可能性のある存在になります。

下記グラフは、日本に上場している企業と国際優良企業における外国人持株比率です。ご覧の通り、全上場企業の平均と比較すると外国人持株比率は約4倍になっています。

この比率の高さは、日本の国際優良企業の海外からの期待を反映したものとも言えるのではないのでしょうか？



※国際優良企業のカテゴリは、GICS分類により国内シェア30%以上、海外売上高比率30%以上、過去10年の平均ROE5%以上の銘柄に基づき分類。

※上記のカテゴリは、スパークスが独自に分類したものであり将来を保証、示唆するものではありません。

出所：東洋経済の情報を元にスパークス・アセット・マネジメントが作成。（2008年3月27日現在）

外国人投資家とは？

日本に国籍を持たない投資家であり、欧米の機関投資家や年金基金、またヘッジファンドなどがあります。最近話題になっている中東をはじめとした新興国のオイルマネーなどもその一つです。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



「国際優良企業」の牽引役

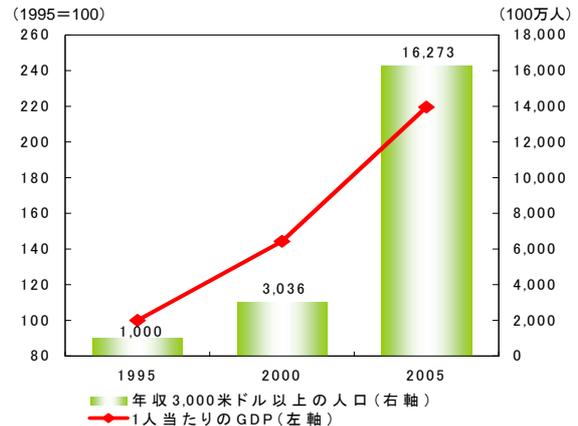
ご存知の通り、ここまで中国は安価で豊富な労働力を背景に「世界の工場」としての役割を果たしていましたが、所得が上昇する中で、最近では「世界の消費地」へと変化を遂げつつあります。右記のグラフは、中国の年収3,000ドル以上の人口推移を表していますが、95年に1千万人だった人口が、2005年には約1億6千万人と大幅に拡大しております。

前号でもご紹介しましたが、こうした中国の『新富豪』と呼ばれる富裕層は、日本製品に非常に強い関心を持っています。

右図からもわかるように、中国では、国内製品以外で、日本の製品が最も高い支持を受けており、まさに高品質な日本製品は、アジア地域においても憧れの対象となっているようです。

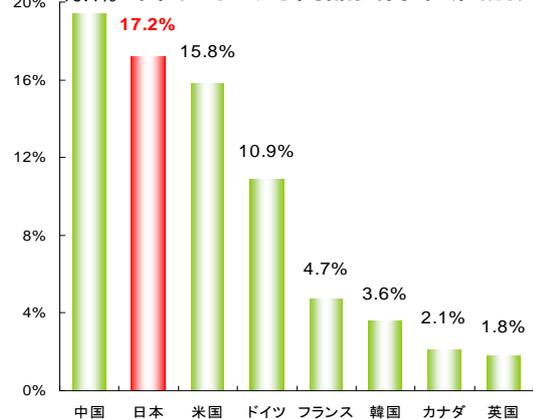
今後、さらに所得水準が上がれば中国などのアジア地域において、高品質な日本製品の人気はますます高まっていくことが予想されます。

中国の年収3,000ドル以上の人口の推移



出所：通商白書(2007年)

中国における商品支持率(国別)



出所：零点市場調査有限公司(HORIZON)、モルガン・スタンレー証券、2007年10月17日現在

次に「国際優良企業」になるのは誰？

今の日本を代表する国際優良企業と言えば、トヨタ、キャノン、ソニーなどが思い浮かびます。いわゆる自動車や家電などの耐久消費財メーカーです。しかしながら今後は、中国をはじめとしたアジアの消費力の拡大に後押しされ、どちらかというところアジア地域で成長するであろう、日用品などの一般消費財メーカーが主役になるのではないかと思います。

確かに中国の約1億6千万人が、日本製の日用品を購入することになったら大きなインパクトになると思います。

(見に行っちゃいな)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面の内容をよくお読みください。

投資信託は、預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入しておりません。投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。

追加型公募投資信託に係る費用について

スパークス・アセット・マネジメント株式会社における追加型公募投資信託に係る費用の上限は以下の通りです。

●直接ご負担いただく費用

申込手数料	: 上限3.15% (税込)
解約手数料	: なし
信託財産留保額	: 上限0.5%

●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	: 上限1.995% (税込)
実績報酬(※)	: ファンドにより、実績報酬がかかる場合があります。
※実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。	

ご留意事項

上記に記載しているリスクや費用の項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、スパークス・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。

投資信託の取得のお申込みをする場合には、販売会社から投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面をあらかじめお渡ししますので、必ずお受取りになり、投資信託説明書(目論見書)等の内容をよくお読みいただいた上、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号
 (社)投資信託協会 (社)日本証券投資顧問業協会



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。